

告 辞

桜の花が舞い、本格的な春の到来を感じさせる本日、新たに佛教大学大学院の新入生となります皆さん、ご入学おめでとうございます。佛教大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、本日まで、大学院への進学を決意された皆さんを支え、その意思の実現に向けて応援してこられたご家族や関係者の皆さまに敬意を表し、心からお喜び申し上げます。

本日より皆さんは佛教大学の大学院生として、新しい環境に身を置き、新たな研究に向き合うというステージで、最初の一步をスタートすることになります。佛教大学はこれまで一貫して、仏教精神を根底に、自分を大切にし、他者をも大切にできる人、そんな人材を社会に輩出してまいりました。通信教育課程は1953年4月に開設され、通信制大学院は修士課程を1999年に、博士後期課程を2003年に開設、大学院設置基準にもとづく正規の高等教育機関として、時間や距離の制約を乗り越え、いつでもどこでもだれでも研究に従事できる場を提供しています。

本学の建学の理念であります仏教精神とは、仏教を開かれた釈尊と浄土宗を開かれた法然上人に共通の生き方を指します。それは眼の前に起こる現実を正しく見据え、自分のなすべきことをしっかりと行なっていくことに他なりません。

佛教大学で研究を志す皆さんには、それぞれの研究の過程で仏教精神に触れ、眼の前にある研究材料をしっかりと分析し、自分にできる「知の探究」を行っていただきたいと思います。

そのためには、知的な「想像力」をかきたてましょう。想像力こそ、人間が人間であるための「智慧」の力の一つです。昨日を思い、千年の過去に思いをめぐらす力。明日を求め、未来を描く力。宇宙の果てにたどり着きたいという思い。空間のあらゆる場所を想像し、時間のあと先を想像することにより仮説が立てられ、それを実証することで学問は発展してきました。皆さんは、それぞれが所属する研究科、専攻で、想像力に磨きをかけ、仮説を立てて実証し、新たな知見の獲得を目指してください。そして、それぞれの研究課程で得られる知見と佛教大学で身に着ける仏教精神をつなぎ合わせ、さらなる生きる力としていただきたいと思います。

さて、本年1月1日、能登半島を襲った地震は、当たり前のように私たちが思い描いていた正月の姿を全く違ったものへと変えました。さらに、今週の4月3日には台湾でも大きな地震が発生しました。能登半島地震ならびに台湾における地震により命を落とされた方々に心からお悔やみ申し上げます。また被災され、今なお苦しい状況下での生活を余儀なくされているすべての方々に心からお見舞い申し上げます。去る3月11日には東日本大震災から13年という年月が経過しています。あれだけの災害を経験していながら、私たちはまだ自然災害への十分な備えや対応ができていないことを、改めて痛切に感じています。繰り返し発生する災害を教訓とし、そこでの経験から学ぶことの大切さを忘れずに、現実や困難に向き合いながら、復興に向けての取り組みや支援を続けていきたいと考えます。

このように地震や自然災害等が頻発するなかで、場所を奪われ、命を落とす方、傷ついた方もあるでしょう。私たちは誰もがそのような状況に遭遇する可能性があります。だからこそ、そういった人々の存在に気づくことが大切です。大学院で学べる環境にあることに感謝し、新たな学生生活のなかで研究者、専門書と出会い、他者と認め合いながら、想像力に磨きをかけ、困難に直面している人のことを思い、多様性についても学びつつ、自らの研究に向き合ってください。

佛教大学の大学院におけるすべての学びが、きっと研究活動に幅を持たせ、学生生活を充実させることとなるでしょう。そして皆さんの人間性にも影響を与える、何物にも代えがたい時間につながっていくことを願っています。お一人おひとりが、アカデミズムにおけるそれぞれの真理の探究に邁進していただくとともに、今起きているさまざまな現実から眼をそらすことなく、自分がなすべきこと、自分にできることをしっかりと捉え、誰もが幸せになることのできる豊かな未来を求めて、研究の道を歩んでいただくことを念願いたします。

入学されましたすべての皆さんが、本学大学院での研究活動を通じて、それぞれの目的にそって着実に研究を進め、あきらめることなく所期の目的を達成されますことを心から祈念し、告辞いたします。

ご入学おめでとうございます。

令和6年4月6日

佛教大学長 伊藤 真宏